

射水市公共交通プラン（平成25年9月策定）の進捗状況

【資料 3】

基本方針 1 だれでも利用しやすい持続可能な公共交通網の構築		
<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の利便性を図り、通勤・通学の足として、また高齢者等の移動手段を確保する公共交通網を整備する。 利用しやすさとともに、わかりやすさを重視し、安心して快適な移動を目指す。 		
具体的施策	取組状況	課題
①通勤や、主に高校生を対象とする通学の利便性を向上させた通勤・通学に特化したコミュニティバスの便を運行し、あいの風とやま鉄道との接続性向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○平成28年6月から、2路線（①・⑬）で快速便の運行を開始した。 ①番路線 越ノ瀉⇒越中大門駅 第1便 通常52分⇒快速便43分 越中大門駅⇒越ノ瀉 第1便 通常50分⇒快速便41分 ⑬番路線 平野⇒小杉駅南口 第1便 通常29分⇒快速便20分 	<ul style="list-style-type: none"> ○富山県立大学が平成31年度から朝の時間帯に小杉駅南口発着のシャトルバスを運行することとなり、⑭小杉駅・太閤山線の利用者が減少することが見込まれる。 ○国立富山高等専門学校では、保護者が通学バスを運行しているが、コミュニティバスの利用を促すダイヤの改正が必要である。
② 移動制約者へのサポートのため、医療機関、商業施設や今後整備される新庁舎等、主要施設等へのコミュニティバスのアクセス向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○市民病院へのアクセス向上のため <ul style="list-style-type: none"> ・下地区から乗り換え無しで行けるようルート改正及びバス停を増設（③番路線） ・塚原地区と作道地区のルート改正（④番路線） ○新庁舎及び市民病院へのアクセス向上のため、太閤山地区（パスコ前）、小杉駅南口、新庁舎、市民病院、新湊地区（新湊地区センター前）を結ぶ⑩番路線を新設した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○④塚原・作道循環線は、数回にわたり路線・ダイヤの見直しを行っているが、利用者は少なく、路線のあり方について検討する必要がある。 ○⑩中央幹線は、乗り継ぎすることで市内各地へ移動できるよう設定したものであるが、市民からは、乗り継ぎせずに目的地へ行くことを望む声が多い。 ○⑩中央幹線は、小杉駅と新湊地区センター間で競合する路線があり、通学客の利用を見込める時間帯に、運行できない区間がある。 ○交通結節点や主要施設をつなぐ路線を考えていく上でどの施設をつなぐか検討の必要がある。（例：保健センター、キッズポートいみず等）
③ 各地域内の交通を担うコミュニティバスにおいては、一定の市街地エリア内の機動的な運行（NP法人等による地域密着型のデマンドタクシーや予約バス等の運行）への取れんを目指す。	○コミュニティバス及びデマンドタクシーの運行により市内全域をカバーしているため、住民主体による運行の取り組みは未だない。	○市内全域をコミュニティバスやデマンドタクシーが運行しているが、日中の買物利用、通院利用には不便な地域もあるため、コンパクトできめ細かな運行を考えると、地域が主体となって運行する地域バス、乗合タクシーなどの導入についても検討していく必要がある。
④ 万葉線においては、新しく整備される高岡駅舎前まで「高岡駅前停留所」を移設・延伸する。	○万葉線は高岡駅まで延伸され、「高岡駅前」停留所を廃止し、駅舎内に新たに「高岡駅」停留所が設置された。（平成26年3月）	
⑤ JR小杉駅及び越中大門駅は、駅舎・駅前広場の機能の充実に努め、利用者にきめ細かなサービスを提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ○小杉駅南口にコミュニティバス バスロケーションシステムのモニターを設置した。（平成26年4月） ○小杉駅南口バス停前にベンチを設置した。 ○小杉駅南口の改札業務は、「小杉駅サービスセンター運営振興会」が行っていたが、平成31年4月からあいの風とやま鉄道㈱が行うこととなった。 ○現在、小杉駅南口及び市生活安全課窓口で実施している小杉駅パークアンドライド駐車場（長距離の列車利用者用無料駐車場）受付業務を小杉駅北口で行うこととなった。 ○越中大門駅前広場整備事業（駅前道路の改良、歩道の敷設、ロータリーの改良）に着手した。（平成32年度完成予定） 	<ul style="list-style-type: none"> ○小杉駅南口待合所があるものの、小杉駅南口のバス停付近は雨風を防ぐものがなく、バス停近くで待機できるような待合環境の整備が利用者から求められている。 ○小杉駅の北口と南口を自由に行き来できる自由通路の設置や橋上駅舎化の要望がある。 ○越中大門駅にエレベーターがないため、エレベーターの設置要望がある。
⑥ 都市計画道路七美太閤山線等、市の南北をつなぐ幹線道路軸の充実や新湊大橋の供用開始に伴い、民間バス事業者の新規路線開設を積極的に促していく。	<ul style="list-style-type: none"> ○富山地方鉄道㈱が、富山駅、射水（新湊）及び氷見を結ぶ観光定期路線バス「ぶりにかバス」を運行した。（平日2往復、休日3往復） ○富山地方鉄道㈱が、大門地区、小杉駅を經由して新高岡駅と国際大学付属高校を結ぶ路線を新設した。（平日のみ運行 国際大学付属高校行き1便、新高岡駅行き3便）（平成30年4月～） ○富山大学附属病院が、小杉駅と大学病院を結ぶ路線バスを新設した。（平日のみ運行1日8往復）（平成30年12月～） 	○富山大学附属病院が新設した路線「小杉駅富大病院エクスプレス」は、富山大学附属病院発13時50分が最終であるが、市民から14時以降の便の要望がある。

基本方針 2 快適な交通環境の整備		
<ul style="list-style-type: none"> ・JR駅の整備を進めるとともに、万葉線関連施設等の適切な維持管理に努め、快適な公共交通の利用促進を図る。 ・駐車場の確保や駐輪場の整備を進め、パーク・アンド・ライド等による公共交通の利用促進に努める。 		
具体的施策	取組状況	課題
① コミュニティバスにおいては、バスロケーションシステムを導入し、利便性の向上を図る。	○平成26年4月にバスロケーションシステムを導入し、インターネットでコミュニティバスの運行状況の確認ができるようになった。また、バスロケーションシステムのテレビモニターを市民病院、小杉駅南口、市役所に設置し、そのバス停でのコミュニティバスの運行状況を確認できるようにした。平成31年度に県内全域でバスロケーションシステムが導入される。	
② 万葉線利用者の安全性の確保や利便性向上のため、引き続き電停・駅舎の整備やバリアフリー化を進める。	○新吉久電停の島式電停化及び海王丸・越ノ潟駅舎を整備した。	○海外から市内へ万葉線を利用した観光客が増えているため、インバウンドに対応した観光案内表示を設置することが必要となってきた。 ○引き続き電停のバリアフリー化を進める。
③ 老朽化が進む万葉線の庄川橋梁の架け替えについては、国・県へ働きかけている新庄川橋の架け替えと深く関係してくることから、今後の動向を注視し、具体化すれば高岡市や万葉線株式会社と協議を進める。	○県公共事業評価委員会で、新庄川橋と万葉線庄川橋梁を一体として整備することの方針が示され、平成31年度から着手される。	○道路橋の整備スケジュールに合わせ、万葉線(株)においても関係機関と協議を進めていく。なお、架け替えまでの間、安全な運行ができるよう計画的に補修工事を行っていく。
④ 国の調査・研究が本格化しているデュアル・モード・ビークル(DMV)に加え、ハイブリッド車両等についても、導入の実現性について判断していく。	○万葉線(株)で、デュアル・モード・ビークル(DMV)及びハイブリッド車両の導入について検討したが、車両重量の問題等で導入は困難である。	
⑤ ICカードについて、並行在来線で導入された後に万葉線でも導入を図り、接続性の強化と乗降時の時間短縮、乗り継ぎ利便性の向上を図る。	○万葉線(株)は、ICカードの導入について、検討協議した。導入は、施設設備の老朽化対策が一段落する平成34年度以降に再検討をする。	○ICカードの導入には、多額の初期整備経費及び管理運営経費がかかる。
⑥ 並行在来線の駅の配置については、まちづくりの重要な要素であり、都市構造上の観点から上位計画における土地利用の方向性との調整が必要とは考えていますが、財政的な面も考慮しながら長期的な視野に立って慎重に判断していく。	○新駅設置に関しては、地理的な条件、駅勢圏人口、採算性等から、現状では困難である。	
⑦ 通勤・通学の利便性向上及びパーク・アンド・ライド等促進のため、駅周辺、民間事業者等の駐車場利用を促進するなど、引き続き駐車場の確保や駐輪場の整備に努める。	○あいの風とやま鉄道の利用促進を図るため、小杉駅及び越中大門駅にパークアンドライド駐車場を提供している。 ○老朽化した小杉駅前自転車駐車を改築した。	
⑧ JR越中大門駅の北改札口の設置問題等については、財源の問題や関係者への対応等が必要であり、今後、並行在来線運営会社と協議を重ねていく。	○老朽駅舎対策や接続道路等の付帯設備の建設等に巨額の事業費が予想されることから、現状では困難である。	

基本方針 3 広域交流を活発化する公共交通機関の充実		
<ul style="list-style-type: none"> ・新幹線開業後の二次交通充実により、広域交流に努める。 ・市域内の地域の連携を強化するための路線網を構築する。 ・市内観光ポイントへのアクセス性向上を図る。 		
具体的施策	取組状況	課題
① 北陸新幹線新高岡駅利用者のフィーダー機能強化のため、城端線との連携の可能性も含めて、万葉線のネットワーク拡大に努める。	○万葉線(株)は、JR城端線への乗り入れのため、デュアル・モード・ビークル(DMV)及びハイブリッド車両の導入について検討したが、車両重量の問題等で導入は困難である。	
② 新湊大橋供用開始後の万葉線の延伸やバス周遊など、海王丸パーク周辺への観光客の誘客と賑わいづくり等に寄与するものと考えられるため、万葉線株式会社や関係機関と協議を重ねていく。また、新湊大橋や海王丸パークへのアクセス向上のため、万葉線とコミュニティバスとの連携を図っていくとともに、電気自動車(バス)等の導入も視野に入れ、パーク周辺の周遊コース設置に努める。	<p>○万葉線(株)は、安全運行の確保を最優先に取り組み、施設設備の老朽化対策が一段落した後にベイエリアまでの延伸を検討する。</p> <p>○平成28・29年度に射水ベイエリア観光周遊バスの実証運行を実施したが、利用者が少なく、本格運行とならなかった。</p> <p>○射水ベイエリア観光周遊バスの実証運行の結果を踏まえ、観光客の周遊性向上となる手法の検討を行う。</p> <p>○万葉線車両内及び観光施設等誰もが簡単に利用できるフリーWi-Fiの導入。</p>	<p>○万葉線の海王丸パーク周辺への延伸については、費用面、用地確保など課題が大きい。</p> <p>○小杉駅から海王丸パークやベイエリア周辺へのアクセスや周遊方法の検討。</p>
③ 並行在来線の第三セクター会社の適正な運営のため、富山県や関係市町村との連携強化に努める。	○あいの風とやま鉄道に対し、引き続き住民の身近な生活路線として利便性の確保が図られるよう、「あいの風利用促進協議会」の場等を通じて連携強化を図る。	
④ JR小杉駅及びJR越中大門駅では、複数の交通機関が結節するため、乗り継ぎをさらに便利にすることで、市域内の連携を強化する。	○あいの風とやま鉄道との乗り継ぎに配慮したコミュニティバスダイヤの設定を行っている。	○あいの風とやま鉄道は、パターンダイヤで運行していないことから、一部時間帯で、コミュニティバスとのスムーズな乗り継ぎができない。
⑤ JR小杉駅については、観光案内所の設置、高速バス停留所の設置などを含め、本市の玄関口にふさわしい、その拠点化を推進する。	<p>○小杉駅・越中大門駅特産品等PR事業として、ショーケースとパンフレットスタンドを設置した。</p> <p>○小杉駅周辺に高速バス停留所が設置された。(3事業者)</p>	○小杉駅北口に観光案内所の設置要望がある。
⑥ 新幹線停車駅である新高岡駅と本市とを結ぶ民間路線バスの参入を民間事業者へ促していく。また、現在民間事業者が運行している富山駅と堀岡地区とを結ぶ路線についても、土日祝日は新湊大橋を渡り、海王丸パークまで運行するようあわせて促していく。	<p>○北陸新幹線の開業に合わせ、富山地方鉄道(株)が、富山駅と高岡駅を結ぶ路線を新高岡駅まで一部延長した。</p> <p>○北陸新幹線の開業に合わせ、加越能バス(株)が新高岡駅と海王丸パークを結ぶ「石瀬・牧野経由海王丸パーク線」の運行を開始したが、利用客が少なく、平成30年3月末で廃止された。</p>	<p>○新高岡駅から海王丸パーク方面に直接行ける路線がない。</p> <p>○小杉駅と海王丸パーク及びベイエリアを結ぶ路線がない。</p>
⑦ 新幹線駅と他の交通網との連携を図る上で、主要地方道新湊庄川線と都市計画道路七美太閤山線の整備は重要課題であることから、県に一日でも早く整備が完了するよう強く要望していく。	<p>○市の南北をつなぐ都市計画道路二口北野線と都市計画道路七美太閤山線の整備促進を重点事業要望として県へ強く働きかけている。</p> <p>○都市計画道路二口北野線については、県道富山高岡線との交差点(大島北野交差点)までの整備が完成し、七美太閤山線については、平成30年度に完成した。</p>	
⑧ 富山ライトレール・コミュニティバス・万葉線及び並行在来線との接続強化により、富山市・射水市・高岡市をつなぐ周遊型の観光ルートを目指す。また、観光客の利便性向上のため、観光路線の開設や、観光タクシー、レンタカー会社の進出を促していく。	<p>○富山地方鉄道(株)が、富山駅と海王丸パークを結ぶ「ぶり・かにバス」を毎日運行している。</p> <p>○あいの風とやま鉄道とライトレール、コミュニティバス、万葉線を組み合わせた1日フリー切符を販売(県事業)</p> <p>○平成28・29年度に射水ベイエリア観光周遊バスの実証運行を実施したが、利用者が少なく、本格運行とならなかった。</p>	○商業施設や商店街と連携した企画切符の発行など公共交通の利用促進の方策が必要である。